サカタニ友の会ニュース
とんからりん

温暖化防止

取り組みに評価

ゴア氏とIPCCがノーベル平和賞 受賞

2007年のノーベル平和賞が国連の「IPCC」とゴア氏（アメリカ元副大統領）が揃って受賞された。

IPCCは「気候変動に関する政府間パネル」という国連の組織。

ノルウェーのノーベル賞委員会は、地球温暖化防止の取り組みに貢献した組織と個人が平和賞を受賞する理由について、「気候変動の拡大は人類の生活条件を変え、脅かす可能性がある」とし、温暖化が大規模な人口移動、資源をめぐる争い、戦争などを引き起こす可能性を指摘。温暖化問題の深刻さと、その防止活動の重要性を強調した。

委員会は、ゴア氏が昨年自ら出演したドキュメンタリー映画「不都合な真実」で温暖化が地球に与える影響に警鐘を鳴らし、緊急の対策を訴えたこと。また、IPCCが、百三十カ国以上、約二千五百人の研究者からなる組織で、地球温暖化に関して統一的な研究を進め、共に地球温暖化防止取り組みをしたことを評価したからと発表している。

ゴア氏は、「とても名誉なことだ。私たちは地球の危機に直面している。気候変動は政治問題ではなく、モラルの問題だ」と声明を出し賞金の一千万スウェーデンクローナ（約一億八千万円）は、国際環境団体に賞金を寄付すると明らかにした。授賞式は12月10日にオスロにて。

ゴア元アメリカ副大統領

京都議定書は悪い政策！

日経夕刊10月16日掲載された記事で、アメリカ アーカンソー州で「京都議定書」について「悪い政策だった。基本的に（温暖化ガス削減のために）経済を下向きにしなければならないかだ」と批判した。2012年失効する京都議定書に代わる枠組みでも二酸化炭素などの温暖化ガス削減を義務つける手法に同意しない姿勢をにじませたと報じていた。（日経参考）

京都議定書に同意しないブッシュ アメリア現大統領

上は、地球温暖化海面上昇で最初に沈む国と呼ばれる島国 南太平洋に浮かぶ ツバル。

ゴアさんとブッシュさん。

ゴアさんは元副大統領で地球温暖化防止でノーベル平和賞受賞。

ブッシュさんは現職のアメリカ大統領。経済拡大命（いのち）で、京都議定書無視派。

そのお二人が時を同じくして新聞にのりました。お釈迦さんは「生きている者は必ず没し、形あるものは滅す」と教えられたとか。人間は大地と水や空気が無ければ生きられない動物。

大地を壊して経済発展はいずれ行き詰まる。ニュートンの世界の終末予言まであと53年。ブッシュさん思考ではそれが早まるかも。それで「さん」を小文字にした

下は、砂漠化が進む、中国西北部

とんからりん 紙面改善

文字→大 ● 行間→広

「とんからりん」は字が小さく、行間せまいので読みづらいとご意見をいただきました。今月号から紙面を改良してみました。

この「とんからりん」は平成7年5月創刊で12年余り続け、集西楽サカタニ開店後は月刊紙にしました。編集、作成、印刷まで自家製。お届けも半数ほどは手配りの超ミニコミ紙です。平成17年12月にソフトを変え写真入り、昨年9月カラープリンターを導入し新聞風の体裁はどうにか整いましたが、内容は独断的記事が多く「いまいち」で感心できたものではありません。

友の会会員様のご意見や情報やご投稿をいただきながら「とんからりん」の名が似合う読物に育てたいと思っています。ご協力をお願い申し上げます。

編集者

発行者
株式会社サカタニ
集西楽・サカタニ
ファミリーマート
サカタニ京阪七条店
〒605-0993　京・東山区七条こころ坂下
TEL・075-561-7974
URLwww.sosake.jp/
Eメール・info@sosake.jp
とんからりんは
毎月発行の
会員新聞です
編集・酒谷義郎
yosirou@sosake.jp

七条こころ坂：こころチャン

ーどんつきーー

▼細い道が碁盤のように健康で外最近旧京都市内使用人車は東西南北に信号をのあるく移動は自転車が自転車は目的地は電車は徒歩で過ごす人が主役、歩きたくなる町並み景観に外出する時代の脇役は大きな案内看板は、細い道を通る分けたら流れ大通りは、通行人は、交通法が変わり、車は、車道を通る。

▼中央分離帯を七条通り半端通りとの交差点。「なぜ東西南北の通りは、碁盤のように整然と区切られているのか。」と、「転ばぬ先の杖」を通り抜けるのは、裸足で洪水を通り抜けるのは、ちょっと横着にしてみるのも、ちょっと苦労して歩いてみるのも、ちょっと面白い。

危険な灯！自転車がいっぱい。夜道は暗い。とらが多い。車は乗り物。優先順位は、自分の体力と相談して、歩いて、走って、泳いで、自転車で、車で、電車で、飛行機で、ロケットで、ワープで、どこへでも行けるようになりたい。

ヨシィちゃんのひとりごと

おめでたい、紅（赤）白むざん（無残）

尋常小学校時代、入学式や祝日には「紅白饅頭」が貰えたことはセピア色の思い出の中にある。今でもおめでたいときの熨斗は「紅白」。祝い事や祭りには「紅白幕」を張る。もう何十年と大晦日にラジオ、テレビで流れる某国営放送局の「紅白歌合戦」。これを見ないと「お正月が来ない」と言われた当時ほどの視聴率はないが、「千の風になって」をクラシック歌手が歌う曲として史上初の100万枚突破という記録に押し上げた。

これは甘いルックスと迫力ある美声のテノールの貴公子と呼ばれる秋川雅史（アキカワマサフミ）と歌詞の負うところが多いのかもしれないが・・。とに角「紅白は縁起が良い」というのが相場である（有った。）

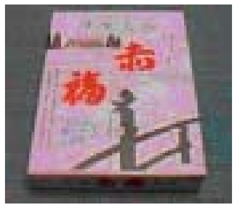
この夏、8月14日に「石屋製菓」製造の「白い恋人」賞味期限問題が発覚した。

「白い恋人」とは、ある年の師走、石屋製菓社長が近くの公園から歩くスキーを終えて会社に戻ってきたときの「白い恋人たちが降ってきたよ」という何気ない一言が、商品名の由来で1976年12月に発売された。

商品の色が白いことが北海道の雪景色を連想させ、北海道限定販売にしたことで、出張や旅行の際の土産品として人気を得た。現在では年間約2億枚を売り上げ北海道の土産と言えば白い恋人とも言われる商品になった。その「恋人」の、賞味期限を1ヶ月延ばして販売したものがあることが発覚。全商品の自主回収を行い、本社工場は操業を停止した。

「北海道ブランド」白い恋人は土産品の単品売り上げで全国2位と言われている。

そして全国1位は赤福（三重県）である。創業から約300年という赤福の名は赤心慶福という言葉命名の元。1707年には伊勢神宮内宮、五十鈴川近くで、すでに販売されていたと伝えられ、まごころ（赤心）を尽くすことで、素直に他人の幸せを喜ぶこと（慶福）が出来、悪しき心を五十鈴川の水に流せば子供のように素直な心になり、人の福を自分のことのように喜び、人の不幸を自分のことのように悲しむという意味。



その老舗和菓子メーカー「赤福」（三重県伊勢市）が消費期限偽装問題だけでなく、原材料の小豆やもち米について、過去に輸入物や冷凍加工品などを使ったこと、更に売れ残った赤福餅（もち）を回収し、再利用した餅とあんに、消費期限切れのものが含まれていたことが判り営業停止処分を受けた。

白は純白の発売当初の精神を、赤は赤心の誠を忘れ利に走った結果であろう。紅白を黒々にした罪は重い。

今「カジノ資本主義」いもいわれ「貨幣」を商材にする風潮が進んでいる。「儲ける＝かね」だけが「善」ではあるまい。商人（あきんど）として私たちはこれを「他山の石」と心しよう。

老人よ後期高齢者医療制度実施されたら 敬老の日返上しよう！

2003年に出来た敬老の日（けいろうの日）と名のつく国民の祝日がある。趣旨は「多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う」と法制化されている。老人たちには有りがたいことだが来年4月から「後期高齢者医療制度」が実施されようとしている。後期高齢者とは満年令七十五才以上の人のこと。苛虐（カギャク）的に言えば、男女とも平均死亡年齢に極めて近くなった老人のことを法律的に他の年代と区別した新語である。

言葉の新語位なら許せるが、医療費をその他の年代と切り離し「その年代だけの保険料で医療費を賄う」という制度が「後期高齢者医療制度」だ。

多年にわたり社会につくし、余後寿命も少なくなり、病気になる、又は病気の人も多い人たちの保険金で医療費を賄うというのだ。その上、保険料は年金から天引きする。七十五才になればその扶養家族ともに全ての公的保険制度から外され、全ての後期高齢者各人が保険料を負担する形になる。

七十五才以上の老人だけで、医療費が賄えるはずがない。七十五才以上賞味期限が切れて廃棄処分にしたいのだろうか。甘い汁を吸った政治家の二代三代目の苦労知らずのお坊ちゃん議員がふえてこんな無慈悲な制度が国会を通過したのだろう。「シンジラレナイ」

敬老の心を持たない人から、名ばかりの「敬老の日」は老人には不要だ。もう休日もいりまへん。だから「敬老の日」の廃止運動を起こそう。「紫色の布団」や「僅かなお祝い金」に目がくらんで、来年4月の「後期高齢者医療制度」を実施されたらエライコッチャ！。老眼鏡かけてでも「制度」の勉強」をオシヤッシャ。

ドンとつき当りました

一ページのコラム「どんつき」で健康のため自転車使用と書いています。ところがその自転車走行中、細く狭い六波羅近くの交差点で自動車と出会い頭に衝突しました。十八日のことです。

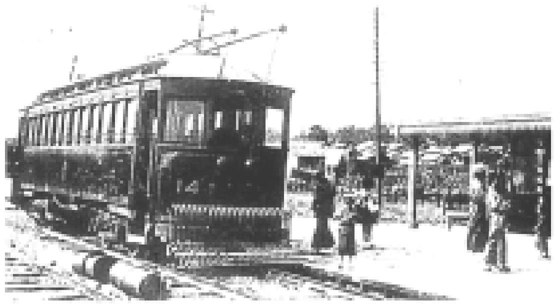
相手四輪、こちらは二輪、重量差も有って転倒、唇が少し切れ、頭をかばった左手も血が出ました。あまり痛くもなかったので、「大難が小難で済んだ」と救急車を断り事故にもせず相手とわかれました。後で病院へ、骨は大丈夫でしたが、夜になって右肩右手痛く眠れませんでした。こんな経験が今までなく後で痛くなるなど知らず自費で医者通い。次の教訓を得ました。**小さい怪我でも救急車。自転車に乗っても調子に乗るな。**「とんからりん」チョッと遅れてゴメンなさい。

第三十五回 朝粥食べておシャベリ会 第3日曜定例

11月18日（日）
午前9時～10時半
イベント：食前30分
◆お話・・山本理江様
地域予防医学について
適切な生活習慣を身につけることが病気の予防につながると地域で適切な習慣をとの活動されているお話
◆必ずご予約して下さい
定員30名強で締め切り
参加費・一般300円
会員様200円
★締切り11月17日昼まで

京阪七条交差点をめぐって(3)

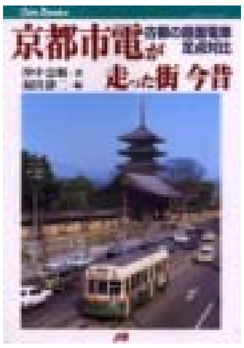
急行列車を設定　沖中忠順（おきなかただより）



※・写真は、稲荷新道（現伏見稲荷）駅に進入する電車。14号は開業時に新造された30輌の一員で1917（大6）年までに全65輌が製造されました。

京阪電車は1914（大3）年5月から最急行と名付けた列車を走らせました。五条〜天満橋間を60分で結ぶものでした。途中の駅は通過で深夜○時30分に双方の駅を発車するものでした。この列車は話題となり、乗客のほとんどは花街で遊興した酔客だったと言われています。

翌年4月、日本最初の色灯式信号機（赤・黄・青）が設置され、朝夕に2往復走るようになり、深夜運転はなくなりました。この年の10月には運転区間は三条へ延長され、五条通過となり四条停車となりなりました。京阪間60分運転はそのままでした。1年後の1916年（大5）8月に最急行は途中停車駅を増やし急行列車に変身、七条にも停車するようになりました。京阪間運転時間は70分となりましたが20分毎の運転で便利になりました。この最急行列車が現在の京阪特急のルーツと言えるものです。急行の七条停車により、七条交差点は名実共に京都の玄関口となったのです。



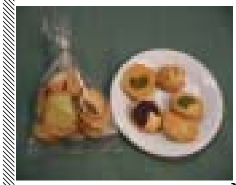
◎ご入用の方取よせいたします。1785円です。

ご投稿者の沖中忠順様（著）福田静二（篇）の懐かしい京都市電の本です。

京都&東山ぶらりピカリ ①

今月号からこのコラムを始めます。町中で頑張っている人や団体。チョッと目にとまったことなどを掲載したいのです。自薦でも他薦でも結構です。ご投稿でご協力下さい。

なづな学園



写真・上はクッキーづくりの現場
下は、出来上がったクッキー。
◆全て手づくり添加物は　使用なし
80g一袋・150円
集酉楽サカタニで
常時販売しています

知的障害者通所授産施設・社会福祉法人・「なづな学園」は東山馬町西5百米南側（東山税務署の向側）に有ります。TEL 561-3355 FAX：561-3356

平成2年民家の一室から始まり、多くの人たちの支援で建替えられコミュニティホールができました。学生さん、地域の人たちのお手伝い協力で、子供たちに本の貸出や催しを行っています。

認可をえて、女子のみ35名（定員）が通所。一般雇用が困難な人が施設を利用して、作業・その他生活上必要な支援を通して、自立自活の援助を目的にした施設です。

◎受注作業は印刷会社から紙箱折。社寺のかわらけ製造。

◇自主作業で粘土・糸・和紙・などを使い「うちわ・カード・バッグ・などつくります。

コンビニえれじー

コンビニは両替商ではないのです

近頃はどこのコンビニでも「公共料金」などの収納代行をしています。コンピューターシステムが電気代・税金までお預かり出来る程進化したからです。お客さん側からすると便利になった「あれだけ納めたのだから沢山儲けたはる」とお思いでしょうが「トンでもハップン」です。（大昔のギャグワカンナイだろうなぁ）

一旦お金をお預かりしますが、翌日に本部にに送ります。金額に関係なく一件当り「耳クソ＝**鼻くそより小さい**」ほどの手数料が三ヵ月後に振込まれます。貰いそこないは全て店の損。領収書控の枚数や預った金額を毎日チェック。まぁコンビニ業のサービスやから、いやがらず喜んでお預かりしています。只一つだけ止めて欲しいのは沢山小銭でお払いになることです。コンビニは両替商でありません。本職の両替商銀行へお持ち込みください。バイトが悲鳴上げています。

傘や自転車を忘れないで

オオジョウシマッセ！。

雨上がり「傘たて」を片付けようとすると「傘」が沢山残っています。店内においでなさる方の数より多い。忘れはったんやと善意に解釈して倉庫で大事に保管します。ビニール傘が殆どで決して上等の傘はお忘れにならないのはどうしてだろう?。。半年程度待って有料ゴミで処分します。自転車の忘れもある。道路上でないと行政は処理してくれない。これもオオジョウしています。

チョッと人手不足で困っています。

20年間勤務して下さっていた「パートさん」がお辞めになりました。補充が出来ていません。学生のバイトは遠方の子が多く地理不案内で観光の方に対応が不充分。近くの方でどなたかと探しています。本日「募集チラシ」を同封しました。ご応募又はお知り合いの方をご紹介ください。

平和憲法と経営・文化の伝統

2007年12月1日（土）午後1時30分〜4時

講演：詩人・作家　辻井　喬　氏

場所・京都府中小企業会館2Fホール（西大路五条下ル）

参加費1000円（前売券）

ご入用の方は酒谷義郎まで

主催・京都中小企業九条の会

酒屋で生きて生かされて

第二十二話・「立ちのみ酒処サカタニ」開店

祖父が大正2年創業した当時、東海道線の東山トンネル、七条大橋と二つの大工事が有り、工事関係の人たちを相手に「酒場」も開設し、大繁盛、戦中戦後も続け、昭和25年「酒卸業」になって廃業しました。

昭和初年から「神馬」という酒を販売し親戚を中心に飲み屋のチェーン店が市内に八店も出来て随分繁盛しました。当時のチェーン店の中で、千本・中立売の『神馬』。北区新町　六間下ル『つじい』は今も営業をしています。

幼い頃からその事を知っており「酒屋は直営の酒場を営業すべき」と常に思っていました。

昭和50年2月、延期していた念願の「立ちのみ酒処」を開店しました。

酒税法で㈱サカタニは酒屋飲食店を直営できないので家内名義の「飲食業」許可をとり、土日以外の夕方5時～8時まで始めました。

15名程度がカウンターで椅子なし立ったまま呑める店です。簡単な100円程度のつまみと「おでん」だけがアテです。「おでん」は大丸裏で私名義の呑み屋（神馬酒場）をした経験もあり「おでん」と「乾き物」で何とか出来ると思って「のれん」を出してスタートしました。「おでん」は昔店にいた丁稚さんの手を借り、家内も参加してどうにか開店出来たのです。だが毎日売上はお客さんはパラパラ。売上も3千円程度でした。

ビールも酒も小売値段に10円加えた値段に設定したので「おでん」のガス代にも足りない状況が一ヶ月余り続くのでした。

皆さんが気持ちよくお酒を楽しんでくださる店にしたいのでお客さんの中で「オイねぃちゃん酒を注いでくれ」とか卑猥なこと言う人には、代金を貰わず即刻退店です。日が経つにつれ、お客さんの試飲会や蔵見学、特別サービスデーなどして段々お客が増え、パートさんも雇い、生ビールや串かつとメニューが増え店も広ろげ、トイレも作りました。

僅か3時間の営業で一人前の「酒場」程度の売上になりました。

酒小売も「ワンツウースリーセール」の定着と大口のお得意先も増え順調に軌道に乗りました。

【次号は店はお客様の為に有る】

世の中（縁）不思議

私には「父方」と「母方」を合わせると7人の弟妹達がいます。その全員に夫々子供がいて「オイ」「メイ」は多数でパソコン管理です。

「父方」は生まれた時から共に育ったのですが「母方」は5年前に60歳を越えた弟と会いました。それが初対面。その後弟達の父が、そして共通の母が今年亡くなり葬儀や法事で三度ばかり「オイ・メイ」とは顔を会せました。

先日、その甥（異父妹の子）の一人が出張で上洛し店を訪ねてきました。

日本酒好きは知っていたので「飲む」ことにして千本中立売にある「神馬」に連れて行きました。その店は妹の旦那が「主」ですが営業中に行くのは30年振りです。

店に入ろうとすると「伯父さんチョッと待って、ここは神馬でしょう」と大声で叫びました。「そうや何で知ってんの」と聞くと「東京のテレビで流れ京都に来たら寄りたかった店」との答え。

後は横浜から届いた「メール」をお読みください。文中の初榮は我が生母で甥の祖母の名。

【メール：驚いたのは連れて行って頂いた神馬（居酒屋）です。まさかあんな事があるなんて本当に驚きです。

京都市内には何千と飲食店がある中で何故？あの時の私と伯父さんの服装、私が酒好き、それらの状況で何故叔父さんが、あのお店をチョイスしたのか・・・・

テレビで観て私が行きたかった店。あの時私は店の前に着いて驚くというよりは震えが来ました。

中に入り、さらに驚き！何と伯父さんの妹夫婦のお店普通ありえません！

神馬店内と、カウンター中で活躍の妹婿の姉

まさにミラクルです。何か特別なパワーを感じずにはいられませんでした。亡くなった初榮さんに感謝です。ありがとう！

料理とお酒、抜群に美味しかったです。

ふぐ刺し、毛ガニ、牛ヒレに埼玉の神亀、広島の雨後の月&伯父さんの話とても幸せでした。この食べ物とお酒の出会いも縁、またまた初榮さんに感謝です。博文】

※選んだ理由は今月の「とんからりん」に書いていたこと。仕事着で「祇園」は無理と思ったから。母初榮の手引きかな？

編集後記

●調子に乗って自転車で転び「とんからりん」のお届けが予定より遅れ、すみません。

●愛読している「新聞うずみ火」の矢野宏様のご意見で紙面を改良しました。読者の皆さんのキビシイご感想をお聞かせください。

○「新聞うずみ火」は7年前亡くなった「黒田清」さんの遺志を継いで出されたもの。12月15日午後「集酉楽サカタニ」で京都で「黒田清さんを偲ぶ会」を開催。問い合わせは「ヨシィちゃん」まで。

●後期高齢者医療制度のことを書きました。制度以前に、考え方が間違っていると思ったから。「お年寄りを大切に・弱いものイジメは恥」との教育を受けた者として座視出来ない。

○70歳越えた今、見た目自分より「ふけた人」を見たら「席」を譲りたくなる。良い癖だ。それなのに自分が「席」を譲られそうになると断固拒否。老人性頑固症候群を自笑する。

●弱いものがいて強いものが生きられる。若い者でも何時までも若くない。これは永遠の真理だと思っている。それで敬老の日廃止運動を起こそうと提案した。日本の老人よ団結せよ！。